

様式1 令和4年度 宇陀市立 菟田野中学校 学校自己評価書

教育目標		人権尊重の精神を基に、確かな学力・豊かな心・健やかな体で未来に力強く生きる生徒の育成～未来をともに創る～						
運営方針		教職員を適材適所に配置し、組織的に学校運営・学級経営を行うとともに、保護者や地域とともに学校を活性化させる。						
前年度からの課題	・基礎学力の徹底 ・学習意欲の向上		・家庭学習習慣の確立		本年度重点目標	○ 組織力強化 ○ 研究課題「主体的な学びにつなぐICT活用」 ○ 誇れる学校	○ 進路保障 ○ 「主体的な学びにつなぐICT活用」 ○ 地域と共にある学校	○ 働き方改革 ○ チーム力を発揮する学校
	大項目	中項目	小項目	具体的評価項目・指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題・改善方針
I 教育活動に関するもの	(1) 基礎学力の定着と向上		① 学習指導計画	指導計画（シラバス）の作成と実施状況	・「主体的な学びにシラバス活用」のページを作成し、新学習指導要領に基づくシラバスを保護者に配布。 ・研究主題「主体的な学びにつなぐICT活用」に向けて学校全体で取り組んだ。 ・教育課程に基づく評価について「学習評価について知ろう」の文書を作成し保護者に配布。 ・授業研究や自主的な授業参観等を通して教員の授業力向上を図った。 ・教科等研究会参加や自主的な授業研究奨励。 ・家庭学習の習慣化に向け「自主学習ノート」や宿題の工夫を行ったが、家庭学習定着には課題が残る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「わかりやすい授業・積極的な参加」生徒肯定的81.2% ・「わかりやすい授業・適切な評価」保護者肯定的50.9% ・「わかりやすい授業・学習意欲向上」教員肯定的92.4% ・授業でのICT機器活用頻度が上がり、「授業での活用頻度2・3日に1回以上」が増加。「授業での活用が学習に効果的」生徒1年100%2年96%3年90%（昨年92.6%） ・「家庭学習の習慣」生徒肯定的74.4%（昨年81%）保護者肯定的51%（昨年度77%）「家庭での学習時間1時間以上12月1年43%（昨年58%）2年54%（昨年30%）3年71%（昨年65%）と低く、家庭学習が定着していない。 ・「自分で計画し学習」1年60%、2年54%、3年55% ・英語単語テスト、国語漢字テスト、数学で毎時間課題プリントなど丁寧な指導を行っているが、定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間確保のために時間割変更を度々行ったが、十分振り替えられなかった。計画的な授業時間確保を図りたい。 ・「シラバス」活用についてまだ課題が残り、改善あるいは新たなものが必要。 ・「わかりやすい授業や主体的・対話的で深い学び」について全体研修を進める。 ・第3観点の評価内容や方法を研究する。 ・「小テスト」や「自主学習ノート」の質向上を図り家庭学習の定着につなげたい。
			② 指導方法の工夫改善	学力向上に向けた指導の工夫（ICT機器を活用した学習活動等）とわかりやすい授業実践		B		
			③ 評価	新学習指導要領に基づく適切な評価		B		
			④ 家庭学習の指導	家庭学習の習慣化のための指導の工夫と実践		C		
	(2) 自主的・主体的に行動できる生徒の育成		① 挨拶と掃除の定着	挨拶の習慣化と清掃活動の定着	・生徒会の挨拶運動（生活委員会と共に実施）。 ・各学年、活発な体験学習を行う。 1年：地域学習 福祉体験学習 2年：ふれあい体験・職場体験学習 3年：修学旅行・平和学習と進路に向けてなど ・生徒の企画運営による全校集会の実施。 ・体育大会で、生徒実行委員による企画、運営を行い、校内音楽会でも各学年が意欲的に取り組んだ。 ・8割の生徒が部活動に参加し熱心に取り組んだ。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分から挨拶をしている」生徒肯定的91.8%（昨年度85%）保護者肯定的84.9%（昨年度82%） ・「学校行事が充実」生徒肯定的93.1%（昨年度比84%）保護者肯定的84.9%（昨年度86%） ・「防災・防犯」生徒肯定的89.5% 保護者肯定的56.6% 教員肯定的92.3% ・生徒が主体的に活動する学校行事や集会が多く、生徒達は積極的に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3者とも「地域への挨拶」は良かった。今後も生徒会を中心に取り組んでいく。 ・学校行事を始め、生徒主体の活動が充実していた。これからも生徒会の活動が、生徒の主体性と個性を活かす活動となるよう進めていく。 ・避難訓練を防災の観点で実施した。今後も防災・防犯に取り組みたい。コロナ禍での体制で良かった点は継続したい。
			② 学級・学年指導の充実	学級活動・道徳・総合的な学習の時間の指導の工夫と実践		B		
			③ 生徒会活動の活性化	生徒が主体となって意欲的に取り組む		A		
			④ 部活動の活性化	安全に、生徒が意欲的に取り組む		A		
	(3) 人権意識の育成		① 人権教育指導計画	確かな人権意識を身につけさせる指導計画	・人権会議の定例化を図り、生き方学習会など全校での取組を年3回以上実施。修学旅行で岡山県長島愛生園を訪ねたり人権フェスティバルで作品を展示したりできた。・1年生は福祉施設に見学にいき、集会では交流ができた。・生徒の実態に合わせた題材と授業づくり。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「思いやり・いじめのない環境作り」生徒肯定的95.4%（昨年度81%）保護者肯定的79.2%（昨年度74%）教員100% ・福祉作業所との交流やLGBT講演会、元パナソニックの方からの生き方学習会など幅広い人権学習ができた。また、1年生は「障害者問題」2年生「平和学習」3年生「部落問題学習」に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権を大切にすることは本校の伝統である。本校の取組を整理し、今後も時代に即した教材研究を進める。 ・地域の方との交流について今後も進める。
			② 指導方法の工夫改善	生徒の実態にあった題材と、工夫ある授業実践		B		
	(4) 生徒指導		① 組織的な生徒指導	組織的な取組で規範意識を高める指導を行う	・生徒指導部会の定例化を図り、職員会議で生徒について共通理解を図るための機会を定期的に設けた。 ・キャリアパスポートの実施。 ・スマホ・携帯安心出前講座・薬物乱用防止教室実施。 ・スクリーニング会議の実施。生徒の状況をSCを交えて確認、定期的に実施した。 ・不登校対応について、専門家やフリースクールにつなげて改善できたケースはあるが、課題が残る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校のルール遵守・善悪判断」生徒肯定的97.7%（昨年度98%）保護者肯定的73.5%（昨年度89%） ・「心配事を先生に話せる」生徒肯定的91.9%（昨年度69%）保護者71.7%（昨年度70%） ・SCやSSWの先生と生徒や保護者をつないで、家庭訪問やカウンセリングが実施できた。 ・コロナ禍でPTA行事が中止、縮小となる中、夏休みの奉仕作業や古紙回収1回は実施でき、保護者の協力を得た。 ・「服装や持ち物などについての規則」を全体的に見直した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もルールやマナーを守る社会性を育てるとともに、自己指導能力、自律心を育てる指導を進める。特に携帯電話について統一した指導をすることが必要である。 ・学校の情報を積極的に伝え、保護者や地域との信頼関係の構築に努める。 ・不登校対応を全体で取り組む体制の構築に努める。スクリーニング会議等であがってきた事案の共有や連携方法が課題。
			② 教育相談・生徒理解	教育相談の充実とSC（スクールカウンセラー）及びSSW（スクールソーシャルワーカー）との連携		B		
			③ 家庭との連携	家庭との連絡を密にし、連携を深める		B		
			④ 関係機関との連携	関係機関との連絡を密にし、連携を深める		A		
	(5) 特別支援教育		① 組織的な特別支援教育	生徒の特性を理解し組織的に特別支援教育を進める	・特別支援教育部会の定例化を図り、生徒の状況や指導の共通理解のもと、組織的に進めた。 ・個別の指導計画の作成し、抽出して生徒の理解度に合わせた指導を行った。 ・授業のユニバーサルデザイン化に取り組む。 ・研究所より講師を招聘しての研修を実施した。 ・生徒の様子について家庭と連携を図り、不登校対応や生徒支援に努めた。 ・市特別支援教育指導員の来校、年5回。 ・自立活動の充実に向けた取組を行いたい。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、配慮を要する生徒について全教員で共通理解の場を設けた。また、個別の指導計画を基に指導を行った。 ・抽出授業により、生徒の理解度に合わせた指導ができた。 ・授業のユニバーサルデザイン化は、全教員で実施できるよう更に取り入れていく必要がある。 ・コロナ禍にあり、特別支援学級保護者会を実施することはできなかった。 ・市特別支援教育指導員に、個々の生徒の指導法について指導していただけたのは効果的だった。更に自立活動の充実に向けて関係機関との連携を深めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のユニバーサルデザイン化の視点を今後も大切にし、検討見直しを定期的に行う。 ・特別支援学級の環境整備、自立活動の充実が課題であり、共有しながら取り組んでいきたい。 ・関係機関との連携を密にし、専門的な意見をききながら進める。
			② 個別の指導計画	個別の指導計画を基にした指導の充実		B		
③ 家庭との連携			家庭との連絡を密にし、連携を深める		B			
④ 関係機関との連携			関係機関との連絡を密にし、連携を深める		A			

様式2 令和4年度 学校自己評価項目（学校経営）				学校名【 菟田野中学校 】				
大項目	中項目	小項目	具体的評価項目・指標	取組と成果	評価		評価の観点・理由	課題・改善方策
II 学校経営に関するもの	(1)組織運営	① 学校経営目標	学校経営目標の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育のグランドデザインを作成し、学校便りや学校ホームページ等で周知する。 ・教員の経験や能力を考慮した分掌配置を行う。 ・校務分掌の見直しを行い、生徒指導・人権教育・特別支援教育・学力向上等各部会別の会議を、定期的に実施し組織的に運営した。 ・職員会議の前に企画会議を設け、効率的な職員会議となるよう取り組み、活発な意見交換ができた。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校教育目標の実践」生徒肯定的96.5% 保護者肯定的67.9% 教員84.6% ・学校教育目標をグランドデザインに表し3つの重点事項に絞ったので共有しやすかった。 ・各部会を定期的に開催し、組織的な運営が可能になった。 ・「校務分掌」教員肯定的80%・職員会議では、建設的な意見を出し合い、前向きに取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標の周知広報を更に丁寧に行う。 ・目標達成に向けた具体的方策を協議。達成度を確認して進めていく体制作りが必要。 ・部会ごとの組織的な運営が進みつつある。一層校務分掌を明確にし定期的な部会の実施・運営。 ・働き方改革の視点を全教職員が共通理解し、業務の効率化を促進する。
		② 校務分掌等の連携	校務分掌の適正化と連携を密に行う		B			
		③ 会議運営と働き方改革	定期的な開催と活性化		B			
	(2)研究・研修	① 研修の組織・計画・実施	組織的な運営と課題の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業を年に、教科研究2回（県指導主事を招聘、今年は国・社）、道徳3回全教員で研修した。 ・全教科において、研究主題「主体的な学びにつなぐICT活用」にむけた取組を実施して冊子にまとめた。 ・県学力向上実践研究推進事業での取組を継承。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「校内研修の充実」教員肯定的90% ・「小中連携の充実」教員肯定的80% ・研修計画をもとに、5回の研究授業5回、校内人権教育研修を実施した。 ・全教科でICT機器を活用した授業研究を進め、1年の取組を冊子にまとめた。 ・「情報活用能力・ICT」生徒肯定的84.7% 保護者62.5% 教員92.3% 	<ul style="list-style-type: none"> ・「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」実施に伴い、引き続き個人研修の奨励を行う。 ・ICT機器活用の研修が2年目となったが、更に「個の学び」にどうつなげるかを研究実施していきたい。 ・教師自身の研修機会を大事にし、全体研修を継続する。
		② 校内研修	実態に即したテーマと実施の工夫		B			
		③ 授業研究	活発な交流と成果を実践につなげる		A			
	(3)保健管理	① 学校保健安全計画	適切な学校保健安全計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健安全計画に従い、共通理解を進める。 ・新型コロナウイルス感染症対策を行い、スクールサポートスタッフの協力を得て消毒作業を実施。 ・熱中症対応指針によりWBGTの測定を行う。またOS-1を職員室と保健室に常備し対応している。 ・保健便りの発行。・SC（スクールカウンセラー）月1回、SSW（ソーシャルワーカー）月2回来校。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対応及び感染症の予防に努めた。 ・「感染予防・食育」生徒肯定的91.8%（昨年度88%） 保護者77.4%（昨年度71%） ・アレルギー対応等での統一を図った。 ・校内でのスクリーニング会議の実施で、専門家の視点から生徒の実態を見直した。 ・救命講習・不審者訓練 教員肯定的 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防対策として、丁寧な保健指導を今後も継続していく。 ・生徒の健康上の問題に連携した早期対応ができた。今後もアレルギー対応等も含め定期的にマニュアルで確認していく。 ・生徒との関わりを大事にし、教員の情報共有を大切にする。 ・SC、SSC制度の有効な活用。教育相談の工夫。
		② 保健指導	保健指導の充実		A			
		③ 健康相談体制の整備	教育相談・SC・SSWとの連携強化		B			
	(4)保護者・地域との連携	① 学校情報の発信	学校ホームページ・学校便り・学年便り等の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページの更新を毎月行い、行事写真・学校便り・学校からのお知らせ等の広報を行った。 ・学校便り、学年学級便りの発行。 ・人数制限を設けての参観を行ったが、保護者の授業参観や学年懇談を実施した。また、校内音楽会や体育大会に参観いただいた。 ・1年生は地域の方による地域学習を実施した。 ・小中全教員による小中教育連携会議を年1回、合同研修を1回行った。その後は各部会で進めまとめた。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校、学年便り・情報提供」生徒肯定的83.8%（昨年度76%） 保護者83%（昨年度71%） ・「小中授業参観」教員肯定的100% ・「小中合同会議・研修」教員肯定的80% ・小中教育連携会議が定着し、9年間で目指す教育を小中の全教員で分科会に分かれて取り組む体制ができた。今年は無理のないように時期や回数を工夫して実施した。英語科では小中連携授業を昨年に続きオンラインで行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりを学期に一度は地域にも配布。公共施設等にも掲示。地域事務所にも置いて地域の方々に読んでいただいている。学校教育の方向性や高校入試の情報、部活動の地域移行等、最新の情報を提供している。今後も継続したい。 ・2018（平成30）年度から開始した小中連携が5年目を迎えた。今後も無理のないよう工夫しながら義務教育9年間を通じた教育、菟田野の子どもたちを育てる体制づくりを進める。
		② 学校(授業)公開	授業参観・オープンスクールの実施		B			
		③ 家庭・地域との連携	地域活動への参加・地域住民の参加		B			
		④ 校種間連携	小中の連携を進める		A			
	(5)教育環境の整備	① 施設設備の有効活用	学校施設の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館、格技室の地域への開放。 ・教材、教具を適正に管理し、計画的に使用。 ・校舎WI-FI環境の整備、一人一台タブレット及び家庭へのルーター貸し出し等で、ICT環境が整備され、授業で活用が進んだ。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校施設を社会体育に貸し出し、有効に使用することができた。 ・図書室を整備し書庫を増やした。図書館司書の意見を得て改善することができた。 ・タブレットで学習できる環境が整い、必要に応じてオンライン授業を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度図書47冊（昨年古250冊新166冊計416冊）購入し、2年間で計463冊増やした。読書推進に関わる図書室整備、「個の学び」に対応できる自習室の整備を行いたい。 ・ICT機器の環境が整った。更に個の学びにつながる計画的かつ有効な活用を努める。
		② 教材教具の整備	教材・教具の整備、活用状況		A			

様式3 令和4年度 学校関係者評価書

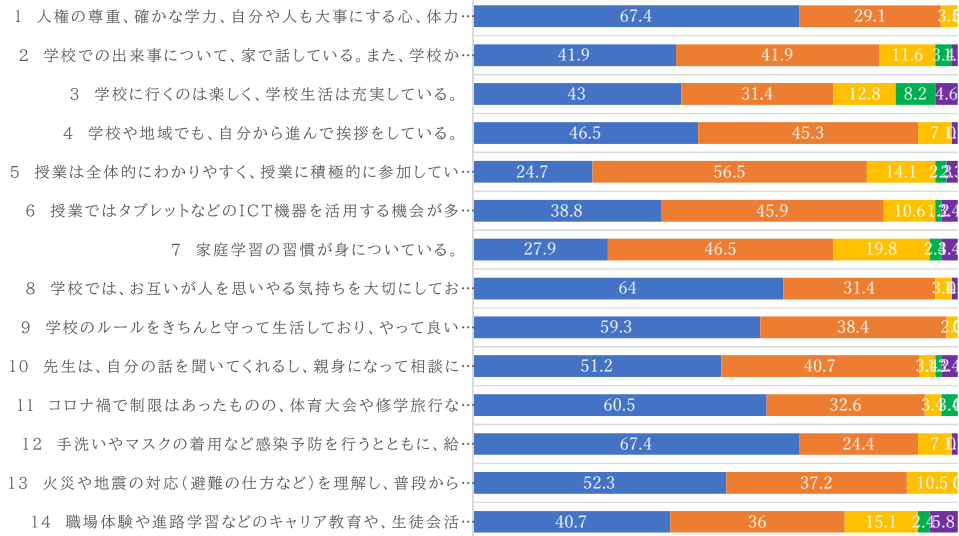
学校名	宇陀市立菟田野中学校
実施日	令和5年3月1日

大項目	中項目	達成状況・取組状況について	取組の適切さについて	改善方策について
I 教育活動に関するもの	(1)基礎学力の定着と向上 (2)自主的・主体的に行動できる生徒の育成 (3)人権意識の育成 (4)生徒指導 (5)特別支援教育	①漢字テストや英単語テスト、課題プリントなど工夫しているが家庭学習の定着にいたっていない。 ②高校受験について、中学3年生になってから具体的に話がでる。 ③紛争や災害について、正しい認識ができてきているのか、支援とは何か。 ④学校を欠席してしまう、遅刻してしまう子への対応 ⑤一部の部活動だけ特化している見方	①小学校国語の文字指導は徹底している。徐々に上がってくるだろう。 ②2年生の成績も必要。3年の受験前後悔してもどうにもならない。 ③社会情勢に敏感に対応できる能力が必要だと思う。 ④コロナ禍で少しでも体調不良なら無理せず休ませるので難しさもある。 ⑤他の部活動も同じように頑張っていることのアピール	①学びが実社会に結びついているという体験が必要ではないか。 ②1年生の頃から、具体的に目標を持ち取り組めるよう見通しが必要だ。 ③世の中のことを幅広く学び、深く考えたり議論しながら思考を深めたり多くの体験をしてはどうか。 ④スマホ・ゲームなどで昼夜逆転、遅寝など規則正しい生活への指導。 ⑤部の活動の様子を広報やテレビで伝える
II 学校経営に関するもの	(1)組織運営 (2)研究研修 (3)保健管理 (4)保護者・地域との連携 (5)教育環境の整備	①通学路の安全について、道が決まっていないのではないかと。 ②コロナ禍での地域との連携の難しさ。 ③仕事をしながらの保護者活動の難しさ。	①明確な指示が必要ではないか。 ②同じようにしたいができない。 ③皆の公平さに特化して、くじでひくなど、なり手が無い役職を無理に決めてしまう。	①定期試験や交通安全の日には立哨したり、巡回指導をしている。年度当初に確認。 ②新しい取組を考えなければ、過疎化がとまらなくなってしまう。 ③人との関わりが苦手、人前で話すことが苦手、得手不得手を理解した上で、助け合いができるような人間関係の形成ができるように。子どもだけでなく、保護者の横のつながりも大切に。孤立しないように。

【その他学校に対する意見】
特になし

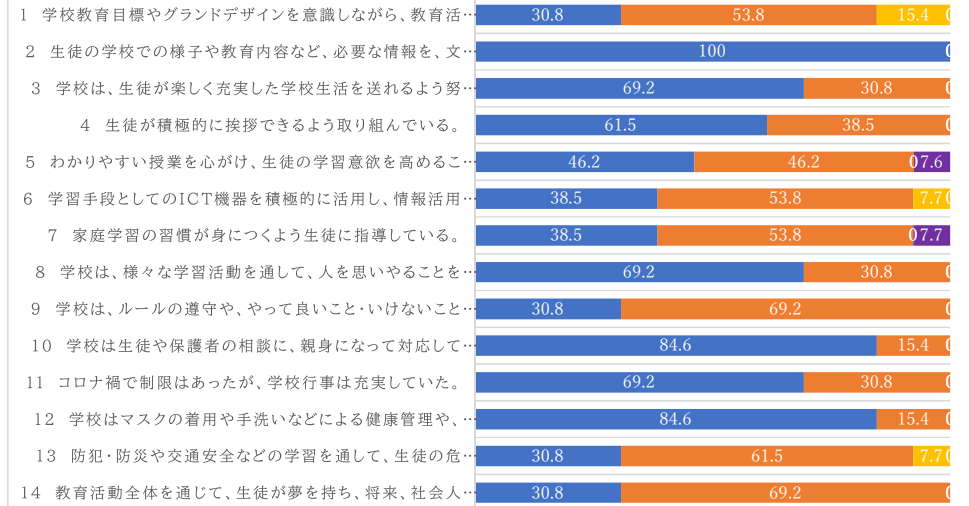
よりよい菟田野中学校にするために(生徒)

■A そう思う ■B 少し思う ■C あまり思わない ■D 全く思わない ■E わからない



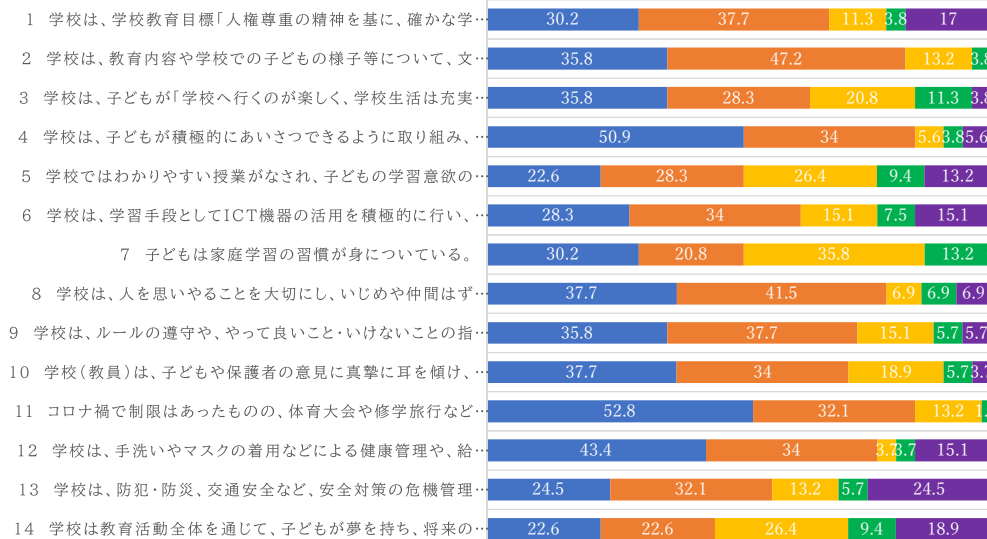
よりよい菟田野中学校にするために(教職員)

■A そう思う ■B 少し思う ■C あまり思わない ■D 全く思わない ■E わからない



よりよい菟田野中学校にするために(保護者)

■A そう思う ■B 少し思う ■C あまり思わない ■D 全く思わない ■E わからない



〈アンケート結果より〉

○「積極的な挨拶」「学校行事の充実」について、生徒・保護者・教職員とも肯定的な回答が多くありました。また、「思いやり」「感染症対策」について、生徒に肯定的な回答が多くありました。1年間を振り返る集会でも多くの生徒達が「相手の気持ちを考えて行動した」と話しており、本校での人権学習を通して多くの生徒達が人を大事にすることや感謝することの大切さを学び実践してくれていたと思います。

○「家庭学習の習慣」「学習意欲・わかりやすい授業・評価」「キャリア教育・進路指導」について、全体として肯定的な回答は少なく、本校の課題の一つであると思います。5月と12月に行われた市の学習状況調査によると、携帯やゲームの時間が長く学習時間が短くなった生徒が1・2年生で多いことがわかりました。家庭学習習慣の確立に向けて、毎時間課題が出ている教科や小テストに取り組む教科がありますがまだまだ定着していない実態があります。奈良県教育委員会から出ている「家庭学習の手引き」によると、家庭学習時間のめやすは「90～120分」となっています。学校でも継続して指導していきますので、ご家庭でもお声かけをお願いします。

○学校評議員会でも、生徒達が地域で挨拶を非常によく行っていると褒めて頂きました。安全上、通学路を明確にすることや学びが実社会に結びついているという体験、社会情勢に敏感に対応できる能力の育成等が求められることなども示唆いただきました。また、保護者の皆様からも「学習状況の実態把握と情報提供」「生徒の早い時期からの進路指導」「幅広い教育の充実」「生徒指導の充実」等のご意見がありました。本校教育の充実に向け、一層取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願い致します。

文責：校長 中山 晴美